

**「建築技術」2014年5月号 読者コーナーQ&A**  
**【大梁に増打ち補強を行う場合の鉄筋の定着長さの取り方】**

WEB 講座-20 は、「建築技術」2014年5月号 読者コーナーQ&A で回答原稿を執筆した【大梁に増打ち補強を行う場合の鉄筋の定着長さの取り方】についてご紹介します。

日本建築学会「RC 配筋指針」では、支持側大梁上部に増打ち部がある場合、小梁上端筋定着部の起点は、小梁端フェイス(図1)か、支持側大梁上面(図3)かについて言及されていません。

ご質問では、増打ち部補強筋が大梁あばら筋と同径、同間隔とすることを前提としています。この場合には、通常、小梁上端筋定着部の起点は小梁端フェイスとしてもよいと考えられます。一方、増打ち部補強筋が大梁あばら筋と同径、同間隔の場合よりも少ないと、増打ち部と大梁部は一体のコアを形成していないとみなされるので、小梁上端筋定着部の起点は小梁端フェイスでなく、支持側大梁上面(図3)とした方がよいと考えられます。

実務設計で遭遇する梁、柱主筋定着の場合、上記のように、「RC 配筋指針」や「RC 構造計算規準」に考え方が示されていないため、それぞれの状況に応じて判断せざる得ない事項が多く残されており、今後、それらの問題点を整理する必要があると考えられます。

(注記)

本稿は、(株)建築技術の了解を頂き、当機構 HP の WEB 講座に掲載したものです。